



環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報」
ホームページ <http://npo-k-leader.net>

2016 7/28
Vol.95
季刊発行 夏号



【特集】3面：大気環境問題雑感

平成 28 年度活動方針 「新しい風を大切に」

新しい風が心地よく吹いています。神奈川県から、県・環境科学センターから、神奈川科学技術アカデミーから、はまぎんこども宇宙科学館から、横浜市から、平塚市から、福祉村から、中学校から、開成町から、東芝未来科学館から、県内公園から等 10 を超える新しい風です。

新しい風を、新しい会員の人も、長く健闘した同志も、中堅のたくましい人たちも、すべてが環境保全活動・環境学習活動のボランティアに胸を張って感度良く、好成績を達成しています。ひとえに、一步前進を図ろうとする強い自主的な意思と、実行力の積み上げです。この間、とても無理だと思っていた環境保全の大気環境改善が達成できたことを知って、皆さんが、英知を結集すれば成し遂げることが可能とした実証です。私たちは常に新しい風を受けて、その風が次の新しい風を生むとの信念で進んでいきましょう。

今こそ、未来のために“COOL CHOICE”クールチョイスを「賢い選択を基本に取組を！」そしてアクションを行いましょう。「パリ協定」を先駆けて努力の先陣を張っていきましょう。そのために、欠くことのできないことは、仲間の「人格」を「尊厳」をお互いに守り高めていくことが肝要です。共に、固く腕を組みましょう。



代表理事
柳川三郎

東芝未来科学館「eco リンピック 2016 夏イベント」へ初参加

東芝未来科学館担当 小林信雄

「東芝未来科学館」は、半世紀ほどの歴史がある「旧東芝科学館」を、一昨年、JR 川崎駅前にリニューアルオープンしました。子どもたちが科学技術を楽しく学ぶことが出来るサイエンスゾーン、東芝が目指すスマートコミュニティの未来に触れることができる展示・体験する科学館です。ここで開催される「eco リンピック 2016 夏イベント」と題した夏休み教室に、当会から 4 教室が初めて参加することになりました。この

教室は、東芝未来科学館 Web メンバー限定の 24 名参加の教室。同じ教室が 1 日午前・午後の 2 回開催されます。7 月の教室は既に関催され好評を得ました。これら教室の授業が好実績を得、継続参加となるよう望まれます。

- ◆ 7 月 20 日（水）「人工の雲を作ろう」柳川講師
- ◆ 8 月 7 日（日）「環境地球儀を作ろう」上田講師
- ◆ 8 月 16 日（火）「水の硬さをはかろう」長村講師
- ◆ 8 月 21 日（日）「植物版画を作ろう」吉岡講師

県・市町村環境学習担当職員研修」講座

地域活性化担当 石井 榮

この講座は、県内各自治体の環境学習担当職員を対象に、環境学習の実例を理解していただくことを目的として、県・環境科学センターにおいて 5 月 20 日（金）開催されました。この講座は毎年定例開催されており、今年を受講者は 19 名。最初に、当会の環境学習活動全般について紹介した後、ルーペ式顕微鏡の工作に挑戦していただき、自作の顕微鏡で観察実習をしていただきました。

前半では、予め染色したタマネギの表皮細胞やユキノシタの葉の観察を通じて細胞や気孔の働きや植物観察の意義を解説しました。後半は、「下水道の浄化の仕組みと微生物の観察」と題して、水資源の有限性と都市部における下水道整備の必要性、下水処理場で活躍する微生物と私たちとの共生関係について解説しました。教室備え付けの生物顕微鏡を使って活性汚泥中で活躍する微生物を実際に観察していただきました。今回作成したルーペ式顕微鏡は、意外に簡単に工作でき、しかも経済的な費用で自分



ルーペ式顕微鏡を作って覗き込む受講者

だけの顕微鏡を作ることができ、ミクロの世界を覗き見ることができたことについて、受講された皆様から好意的な評価をいただくことができました。この講座実施に当たってご協力いただいた方々へ厚くお礼申し上げます。

スキルアップ講座を受講

スキルアップ担当 吉田 和史

7 月 14 日（木）、県・環境科学センターにおける平成 28 年度第 1 回スキルアップ講座が開催されました。講座名「都市環境を考える～持続可能な都市をめざして～」、講師は、（独）国立環境研究所社会環境システム研究センター藤井実主任研究員。講座では、①3R（Reduce/Reuse/Recycle）で廃棄物を減らすための方法、②エネルギーの有効利用について具体的な例にて、視点を変えながら説明いただきました。特に、リサイクル効率の最大化で廃棄物を極力減らすスマートリサイクルの取り組み、と併せて廃棄物に関わる施設と人的資産を適正に維持することが持続可能な都市運営には重要だと再認識しました。リサイクル分別はいまだ 1 割程度という現実を知ると、市民レベルの一層の意識改革が必要です。講座には当会から 21 名が参加しました。



第一回スキルアップ講座会場

環境活動実践講座

代表理事 柳川三郎

この講座は、環境保全活動に関心を持つ県民の方々に、大気、水質、生物などの調査法や地域生態系保全を学ぶことを通して、地域で環境保全活動をしていただくために必要な知識や技術を習得していただくことを目的に、県・環境科学センターにより定例開催されている実践講座です。

6 月 25 日（土）、「環境保全上の課題と実際に調査を行う手法」と題し、午前の講座では、県・環境科学センター鷺山講師により「大気の簡易測定」について、県民が実践可能な水質、大気の簡易測定方法について行われました。

午後は柳川講師により環境調査を行う際の手法や手順など、環境調査計画の企画技法から水質・大気・里山・植物について指導を行いました。両講座の実技に、当会から大岩講師、濱辺講師、伊東講師がスタッフとして参加しました。特に、家庭内の CO₂ 見える化運動への取り組み手法や、横浜市泉区の旧米海軍基地深谷通信所跡地の活用への市民参加による保全改善の手法は良い修練となりました。

Leader's TOPICS

大気環境問題雑感

当会会員（神奈川県地球温暖化防止活動推進員）長村吉洋



① 夏場の天気

年々、猛暑と呼ばれる日が多くなっているような気がするの、暑さがこたえる老人になったからかもしれませんが、やはり地球規模での気候変動が進んでいることにも起因するのでしょうか。今年（2016年）も6月から暑い日があり、7月に入るや否や、光化学スモッグ注意報が川崎地区、横浜地区に発令されました。夏場は、熱中症とともに、今なお光化学スモッグに気をつけなければならないことを鑑みると、公害を克服してきた近代の歴史は、まだまだ終わりを告げているような気がします。

② 青い空は戻ったけれど

川崎地区には多くの工場が存在し、首都圏および日本の高度成長を支えてきましたが、それと同時に大気汚染をはじめとする様々な公害問題に直面し、事業者と行政、市民が一体となって環境問題を克服してきた歴史があり、現在もその息吹が感じられます。青い空、白い雲が見られなかった当時からすれば、格別の感がある昨今です。

事業所から排出される大気汚染物質がなくなった現在、自動車排ガスの規制も進み、大気環境問題は克服したかのように見えますが、夏になると出される光化学スモッグ注意報はなかなか減る様子がありません。

③ 減らない光化学スモッグ

図1は、神奈川県および全国で発令された光化学スモッグ注意報の発令延日数をグラフにしたものです。40年間を振り返って見ると、光化学スモッグが頻発した1970年代に比べて、現在は半分以下になってはい

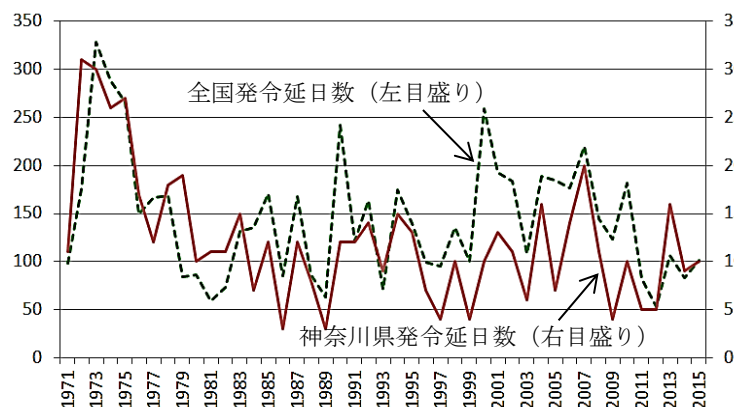


図1 光化学スモッグ注意報・年間発令延日数の経緯
環境省及び県・環境科学センターのデータより作成

ますが、いったん減少した光化学スモッグが2000年以降、増えているかのようにも見えます。2008年頃から対流圏オゾンが増え続けているのは越境汚染によるものではないかと心配され、その後も研究が続けられていますが、なかなかその原因を明らかにするのは困難なようです。

図2は、名古屋大学大学院の須藤健悟氏のwebページに掲載されているシミュレーションの結果ですが、汚染物質が太平洋やユーラシア大陸を横断する様子が示されていて、地球規模で汚染物質が広がっている様子が驚かされます。

④ 皮肉なオゾン

光化学オキシダント（ O_x ）と呼ばれる汚染物質の濃度の環境基準は、1時間値が0.06 ppm以下となっており、同値が0.12 ppmを超えた時に光化学スモッグ注意報が発令されます。この光化学オキシダント（ O_x ）には、オゾン（ O_3 ）、パーオキシアセチルナイトレート（PAN： $RCOOONO_2$ ）や、その他の光化学反応により生成される酸化性物質が含まれますが、その生成機構は非常に複雑です。

成層圏にはなくてはならない上空のオゾン層が減少し、我々の生活圏である対流圏でオゾンや関連物質が増加しているというのは、なんだか皮肉のようにも感じられます。オゾンはやはり生臭い！

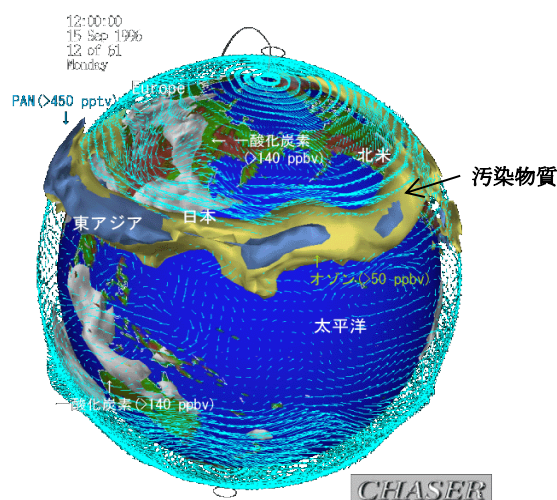


図2 全球化学気候モデルCHASERにより計算された各種汚染物質、光化学オキシダント（黄－オゾン、紫－PAN）と一酸化炭素（白）の流れ（名古屋大学大学院環境学研究科 地球環境科学専攻 須藤健悟氏 Webより）

はまぎん こども宇宙科学館・洋光台サイエンスクラブ

平成28年度 環境体験教室 報告



実行委員 小林信雄、田口繁雄

■ いろいろな発電を体験しよう 4月23日(土) エネルギー部会長 桑原 清

今年度第1回目の教室「いろいろな発電を体験しよう」、副題「自分の力や自然の力で電気を作ってみよう」と題して開催しました。参加したのは小学4年～中学2年の21名と講師・スタッフ9名。先ず地球温暖化と発電の関係を学んだ後、電磁誘導などの実験を行いました。発電体験では、手回し発電(電気の仕事、40W点灯体験)、風力発電、太陽光発電、温度差発電、スターリングエンジン、燃料電池、燃料電池自動車を体験しました。実験を楽しみながら電気を作る大変さを体感し、省エネの大切さを理解するとともに、自然エネルギーなどの化石燃料に頼らない発電方法を学んで貰えました。



コイルと磁石で電磁誘導の実験

■ 海藻おしばを作ろう 4月24日(日) 会員 松原洋一

今回の「海藻おしばを作ろう」は、子どもたちに海藻だけでなく海の生物が身近なものになって欲しいと思い、第1部の海藻のおしば作りの後に、第2部として海洋生物について写真やクイズで楽しんでもらいました。海藻おしば作りでは子どもたちは、実際に海藻に触れることによって海藻の形や色が理解でき、海藻が身近なものに感じてくれたようです。第2部の海洋生物の紹介では、食卓に並ぶ魚類から始まり、神奈川の海で見られる魚、ウミウシ、軟体動物や甲殻類などを紹介しました。最後に、海中の動画を見てもらいました。子どもたちは写真よりも動画の方に興味を示してくれました。



海藻を素材に「おしば」作り

■ 目指せ! 植物観察士(春1・2) 5月14日(土)・21日(土) 午後 自然環境部会 吉岡嗣二郎

この教室は2回シリーズで開催し、当会が独自に認定する「植物観察士」を取得するものです。1回目は、春の植物の特徴を学習した後、隣接公園に出て、草類や樹木の葉など講師から説明を聞きながら観察しスケッチしました。教室に戻って木の葉とアクリル絵具を使って「植物版画」を作りました。2回目は、1回目に引き続いて植物の学習と公園に出てミラーウォークを楽しみ、植物を観察しメモしながら理解を深めました。教室でスケッチをまとめて成果を発表。テストの後、全生徒に「植物観察士」の認定証を授与しました。生徒たちは誇らしく笑顔で認定証を受け取りました。



「植物版画」が完成しました

■ 和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察 5月21日(土) 午前 水環境部会長 柳川三郎

この生き物観察教室では、相鉄線いずみ中央駅近傍を流れる和泉川(地蔵原)の水辺において、首都圏の川の生態を体験学習しました。始めに、水のきれいさを確かめるため、生徒全員でバックテスト COD(化学的酸素要求量)測定と水の透明度を測って、きれいな川であることを確認しました。その後、いよいよ生徒たち待望の川に入って生き物捕りです。保護者と一緒に網を使って生き物捕りに挑戦しました。獲物はオニヤンマ、ギンヤンマ、コオニヤンマ、カワトンボのヤゴ、ヌマエビなど。講師から獲物の生態を詳しく解説があり、水辺を大切にすることを体験的に学びました。



川に入って生き物捕りに挑戦

(右上へ続く)

(左下より続く)

■ 木の二酸化炭素吸収を調べよう 5月22日(日) 子どもサイエンス部会長 荒谷輝正

この教室の目的は、地球温暖化の抑制に樹木が役立っていることを体感するため、木が二酸化炭素を吸収する様子を実験で確かめることです。始めに、地球温暖化と二酸化炭素の関係について解説。白濁実験の後、隣接公園の木々の葉が光合成で二酸化炭素を吸収する実験を行いました。更に、4種の木の太さを測ったデータを用いて、どの木がどれだけ二酸化炭素を吸収するかを計算し、理解しました。また、テレビ1時間当たりの二酸化炭素発生量と樹木の二酸化炭素の吸収量との比較も行いました。これらの実験を通して樹木の大切さを身近に感じてもらいました。



木の葉で二酸化炭素の吸収実験

■ ルーペ式顕微鏡を作って「花粉」を見てみよう 6月11日(土) 廃棄物部会長 石井 榮

始めに、光の性質やレンズの働きについて実験しながら解説しました。その後、接眼レンズとカラーボードにてルーペ式顕微鏡を作って、紫露草のオシベの花糸に密生している繊毛を観察しました。薄紫の数珠玉を連ねたような細胞の美しさに思わずおっ！と声をあげる子どもも。更に、タチアオイ、ヒルサキツキミソウ、ヒルガオの花粉を観察し、花粉の形や色の違いに魅せられました。その後、植物が自分の子孫を殖やすために風や、昆虫、鳥などを上手に利用する驚くべき知恵と自然の不思議さを学びました。今回、植物のミクロ世界を覗き見たことにより、植物観察への興味を深めてほしいと願っています。



見えた、見えた、花粉きれい！

■ 大豆もやしを育てよう 6月26日(日) グリーン部会 上田恵一

この教室は、ペットボトルで発芽セットを工作し、発芽大豆を植付け、自宅へ持ち帰って、双葉が出るまで育て、成長の様子を観察体験するものです。

始めに、「大豆はすごい」「畑の肉」栄養素の豊富さや加工食品の多様さ、根粒バクテリアの力、地元産「津久井大豆」の特徴、大豆が世界的に広がったことなどを学習しました。その後、生徒たちはペットボトルをハサミや色テープを使って、苗床を作る作業に挑戦。やや苦労しながらも全員が発芽大豆の植付けを完成させました。自宅での手入れの方法や発芽観察のポイントを丁寧に解説しました。植物の成長に親しむきっかけとなるよう期待しています。



大豆根粒を示しながら解説

出前授業「福祉村大神よりきの郷」7月7日(木)

自然環境部会長 吉田和史



平塚市大神公民館の会場にて開催された環境出前授業

地元老人クラブ主催のサロン会で「君のやさしさが地球を救う」と題した出前講座を行いました。内容は、今回テーマの講演、紙芝居「冬のお使い」、「電力自由化と電気の節約術」を柳川代表理事はじめ3人の講師で行いました。参加者は65歳以上の受講者40名で、日頃から環境活動や省エネにも熱心に取り組んでいると察しられ、紙芝居と講演を熱心に聴講いただきました。環境の講座では、世界で問題となっている異常気象や環境破壊を具体的に解説し、孫世代のために地球環境を良くするために何ができるかを、わかりやすい事例を使って伝えました。電力自由化や電気の節約術のミニ講座では、特に「電力自由化がよく分った」との感想が多く聞かれました。



Welcome 新会員紹介

New face

入会の決め手は

「パスカルの原理」

◎入会のきっかけ

私のボランティア経験は、「はたちの献血」(日本赤十字社)のPR活動などを高校卒業後から15年間ほど携わりました。現在は、現役時代に下水道事業に係る仕事の経験から「よこはま水環境ガイドボランティア」に登録しております。その関係から、リーダー会廃棄物部会長の石井様と出会い、昨年の1月に入会しました。

◎入会の決め手

入会するに当たって、「呼吸で自分を持ち上げよう」を見学させていただきました。その感想としては、内容が子どもも保護者も分かり易く単純質素なもので、子どもの呼吸の力で重い保護者が浮かぶと、子どもが満足そうな顔に、保護者が一緒になって楽しむ姿はとてもほえましく感じました。

周囲に集まった大人たちから、この動作の不思議さの質問に対し、「これは、皆さんが中学校の時に学んだ「パスカルの原理」ですよ、思い出してください」と、科学的な原理を説明すると「そういうことなのか」と納得し笑顔が見られました。この様子に感動してリーダー会



●PROFILE

- ・現住居：横浜市戸塚区
- ・生年月：昭和24年2月
- ・趣味：家庭菜園
- ・所属部会：水環境部会・部会長
自然環境部会

見上 博さん

への入会を決めました。子どもたちが楽しく遊ぶことを通して学び、大人が納得できる裏付けがある活動、この活動のエモーションが入会の決め手でした。

◎ライフワーク

現在の趣味は、イギリス伝来の競馬、中国渡来の麻雀、日本独自のパチンコと通常ギャンブルと言われる分野を楽しみながら家庭菜園で野菜を育てることをライフワークにしております。

私は今年度の総会で、理事と水環境部会長として承認されました。現在、あたふたと身が引き締まる思いです。健康でボランティア活動を続けられるのは70才までと考えながら、皆様のお役に立つよう努めますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。

◆4月～7月入会：萩谷美恵子さん(厚木市)

出前講座 平塚市立土沢中学校

自然環境部会長 吉田和史

5月6日(金)、平塚市立土沢中学校で「ストップ! 温暖化のために何ができるか考える」を行いました。中学2、3年生12名の男子生徒が理科室に集い、柳川代表理事によるテーマ講演、「電球の省エネ比較実験」、「自分に何ができるか」のワークショップなどを実施しました。生徒たちはこのテーマに真剣に取り組み、ワークショップでも活発な発言がありました。



電球の省エネ比較実験

出展 地球環境エコ10フェスタ

自然環境部会 吉岡嗣二郎

5月28日(土)、「かながわ地球環境保全推進会議」主催の「地球環境イベントかながわエコ10フェスタ」が「象の鼻パーク」で開催され、当会からも出展しました。内容は、「環境クイズ」と美しい地球をイメージした「切り紙工作」を行いました。当会のブースには海外の方や車いすの方の参加もあり、準備した材料がすべてなくなるほどの盛況でした。



当会出展ブースへの来場者

講座・教室・部会活動 Information (8月～10月)

■教室・イベント情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	開催担当部会
■身近なもので電池を作ろう	8月1日(月)	10:00～12:00	環境科学センター	エネルギー部会
■手づくり顕微鏡で生き物を観察しよう	8月3日(水)	14:00～16:00	環境科学センター	廃棄物・自然環境部会
■汚れた水をきれいにしよう	8月3日(水)	10:00～12:00	環境科学センター	子どもサイエンス部会
■空気についてしらべよう	8月4日(木)	10:00～12:00	環境科学センター	大気環境部会
■プラスチックのリサイクル実験教室	8月4日(木)	14:00～16:00	環境科学センター	子どもサイエンス部会
■いろいろな方法で発電してみよう	8月5日(金)	10:00～12:00	環境科学センター	エネルギー部会
■一年草ケナフで和紙ハガキを作ろう	8月6日(土)	13:30～15:00	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	子どもサイエンス部会
■環境地球儀を作ろう	8月7日(日)	11:00～12:30 14:00～15:30	東芝未来科学館	グリーン部会
■リサイクル紙で丈夫な椅子を作ろう	8月7日(日)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	子どもサイエンス部会
■挑戦！君は自分で自分を持ちあげられるか？	8月7日(日)	10:00～15:30	青少年センター	廃棄物・自然環境部会
■種グライダーを作って飛ばそう	8月9日(火)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	廃棄物・自然環境部会
■ペットボトルで水ロケットを作ろう	8月10日(水)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■水の硬さをはかろう	8月16日(火)	11:00～12:30 14:00～15:30	東芝未来科学館	会員
■中津川・生きものしらべ教室	8月17日(水) 8月24日(水)	10:00～13:30	神奈川工科大学 近傍河川	水環境部会
■環境地球儀を作ろう	8月19日(金)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会	8月20日(土)	10:00～13:30	和泉川・地蔵原 (はまぎん科学館)	水環境部会
■植物版画を作ろう	8月21日(日)	11:00～12:30 14:00～15:30	東芝未来科学館	自然環境部会
■親子で楽しむ環境体験教室	8月27日(土)	10:00～12:00	横浜市泉区役所	エネ・自然・子S部会
■身近なもので電池を作ろう	9月17日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	エネルギー部会
■人工の雲を作ろう	9月24日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■環境学習リーダー養成講座	10月22日(土)	13:00～16:00	環境科学センター	自然・エネ部会(調整中)
■ルーペ式顕微鏡を作って「気孔」を見てみよう	10月29日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	廃棄物・自然環境部会
●定例部会情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	部会長
●エネルギー部会	8月10日(水) 9月14日(水) 10月12日(水)	(勉強会 15:00～) 16:30～17:30	県民センター 705会議室	桑原 清
●自然環境部会	8月17日(水) 9月21日(水) 10月19日(水)	18:00～20:00	県民センター 10階FS	吉田和史
●廃棄物部会	8月17日(水) 9月21日(水) 10月19日(水)	16:00～18:00	県民センター 10階FS	石井 榮
●子どもサイエンス部会	未定	—	—	荒谷輝正
●水環境部会	未定	—	—	見上 博
●グリーン部会	未定	—	—	柳川三郎
●大気環境部会	未定	—	—	猪股満智子



事務局だより

桑原 清

■理事会開催予定

- ・8月11日(木) 710会議室、・9月8日(木) 601会議室、・10月13日(木) 710会議室
- ・時間各回 14時～17時30分、かながわ県民センター

■会員対象スキルアップ講座(予定)

- ・9月8日(木) 10時～12時、かながわ県民センター 604会議室

■平成28年度総会報告

5月29日(日) かながわ県民センターで開催した平成28年度総会で全議案とも提案通り承認されました。今年度の役員業務分担は以下の通りです。(※新任)

【代表理事】柳川三郎(グリーン部会長)

【副代表理事】田口繁雄(会計、助成金・補助金担当、青少年科学体験活動推進協議会担当、横浜こども科学館事業担当、かながわアジェンダ推進センター理事)、桑原清(事務局、エネルギー部会長)

【理事】荒谷輝正(個人情報管理責任者、名簿管理担当、県青少年科学体験活動推進協議会担当、子どもサイエンス部会長)、石井榮(地域活性化担当、かながわコミュニティカレッジ担当、廃棄物部会長)、猪股満智子(大気環境部会長)、小林信雄(広報部長、会報編集担当、横浜こども科学館事業担当、東芝未来科学館事業担当)、品川高儀※(県環境科学センター担当)、濱辺謙吉(ホームページ管理責任者兼管理担当者、安全管理担当、県環境科学センター担当)、見上博※(水環境部会長)、三田重雄(かながわコミュニティカレッジ担当、新規事業担当)、吉岡嗣二郎(新規事業担当、会計担当)、吉田和史(スキルアップ事業担当、県環境科学センター担当、自然環境部会長)

【監事】安藤紘史、井上勝義※

【運営委員】鈴木勝男(事務局担当、広報担当、エネルギー部会副部会長)、森脇清(運営委員、会計担当、広報担当)

◎エネルギー部会・活動報告 6月15～16日(木) 岩手・宮城復興 研修旅行 桑原 清



南三陸町防災対策庁舎とかさ上げの盛土

鶴住居、大槌町、陸前高田、気仙沼、南三陸町、石巻など八名にて視察

身近な生物指標 自然観察 お願い

■初夏～初秋の対象：ミンミンゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、ニイニゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ミヤマクワガタ、アカボシゴマダラ、アサギマダラ、ツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ヒガンバナ、クズ。

■自宅周辺、外出の際に注意を払うと気候変化に気付きます。「いつ、どこで、初見、初聴き」のご報告をお願いします。

■送り先：大気環境部会長 猪股満智子

・Tel/Fax0467-32-6858

■ 会員募集のご案内 ■

当会では、子どもたちへの環境体験教室など、多彩な環境啓蒙活動が年々増加しています。環境に対する思いがある方、私どもと一緒に活動していただける方の会員募集をしております。当会の活動内容や入会の申し込みは、当会のホームページをご覧ください。

副代表理事 田口繁雄



特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報第95号」 2016年7月28日発行

■ 発行者：代表理事 柳川三郎 編集：広報部長 小林信雄

■ 所在地：〒226-0005 横浜市緑区竹山三丁目2番地4 竹山3201-134

■ WEB：http://npo-k-leader.net/ ・ご連絡、お問合せ E-MAIL：npo.k.leader@gmail.com

◆ 寄付・会費等納入口座：ゆうちょ銀行00230-4-30769 神奈川県環境学習リーダー会

★ ©不許複製：神奈川県環境学習リーダー会

ホームページ

Kリーダー会

検索